



こやの里たより

(第3号)

令和8年5月1日(金)

兵庫県立こやの里特別支援学校

校長 只石和世

～再会の刻～

4月1日より着任しました、高等部担当教頭の山下 大樹です。こやの里特別支援学校に勤めるのは、今回が二回目になります。一回目は、今から30年ほど前、1995年(平成7年)のことでした。その後に阪神大震災と呼ばれることになる、あの大きな地震のあった年です。地震から約1ヶ月後、2月の終わり頃から、本校での勤務を開始しました。特別支援学校(当時は養護学校という名称でした)はもとより、学校に勤務すること自体が初めてのことでした。高等部2年生の学年に配属となって、最初の授業は確か調理実習でたこ焼きを作る、というものでした。当時の生徒のみなさんと一緒に、たこ焼き器を囲んで生地を流し入れ、小さく刻んだたこを一つずつ投入し、ひっくり返し…、といった行程をああでもないこうでもないといながら作って食べたことを覚えています。

その後、いくつかの学校での勤務を経て、再びこやの里特別支援学校へ戻ってきました。着任初日に職員用玄関に入ると「青い鳥」とタイトルのついている卒業制作の大きな作品が目に入りました。作品の下にあるプレートには「第14回高等部卒業記念」とあり、当時の卒業生の名前も記載されているのですが、そこにはまさしく30年前に所属していた学年の、生徒の名前が記されてありました。それを見た途端にその時の様々な記憶がさらに鮮明によみがえりました。学習発表会の舞台発表の演目として取り組んだ音楽劇『青い鳥』、それをモチーフにして卒業生みんなで作品の制作に取り組んだのでした。30年の時間が過ぎた後に、ふたたび目にするのができて感慨深かったです。

令和8年度、一学期の始業式では、元氣よく校歌を歌う児童生徒のみなさんの姿を見て、学校の長い歴史のなかで、連綿と歌い継がれてきた校歌は、これから入学する児童生徒へと受け継がれていくのだなと懐かしく、また嬉しく思いました。その翌日には入学式があり、これですべての学部・すべての学年の児童生徒が揃い、本格的に新年度がスタートしました。

この原稿を作成している4月末の時点においては、穏やかな天候のなか、校内にあるたくさんの木が花をつけています。特に、高等部へ向かう通路のそばにある藤棚には、紫色の花がたくさん咲いていて、よい薫りが立ち登っていました。確かこの藤棚もずっと以前からあるものだったと記憶しています。過ぎていく月日のなかで、変わっていくものもたくさんあるけれども、卒業制作の作品や校歌、敷地内にある様々な植物などのように、その時々の人気持ちのこもったものや、ずっと変わらずに学校とともに年月を刻み、この学校に集う人たちを見守ってくれているものなどに触れるたび「おかえりなさい」と温かく迎えられたような心持ちがしています。

